

悲しみを輝きに

「遺骨ダイヤモンド」広がる

かけがえのない人の遺骨や遺灰をダイヤモンドや宝石に加工して提供するサービスが全国に広がっている。東日本大震災で愛する人を失った被災地からの依頼も。大切な人をいつまでも忘れず、肌身離さずつながっていたいという願いが、そこにある。

(天田優里)

静岡市葵区のメンタルケア会社「アルゴダンザ・ジャパン」。スイス南東部のドマート・エム遺骨から人工ダイヤモンドを製造し、職人の手で指輪やネックレスに加工するサービスを手掛ける。

かけがえのない人の遺骨や遺灰をダイヤモンドや宝石に加工して提供するサービスが全国に広がっている。東日本大震災で愛する人を失った被災地からの依頼も。大切な人をいつまでも忘れず、肌身離さずつながっていたいという願いが、そこにある。

静岡市葵区のメンタルケア会社「アルゴダンザ・ジャパン」。スイス南東部のドマート・エム遺骨から人工ダイヤモンドを製造し、職人の手で指輪やネックレスに加工するサービスを手掛ける。



遺骨ダイヤモンドを使ったオリジナルデザインのアクセサリ——静岡市葵区のアルゴダンザ・ジャパンで

個人差で色味の変わる遺骨ダイヤモンド (同社提供)



被災地からも依頼「大切な人、身近に」

で見守ってくれている気がする」と話す。

法月雅喜社長によると、依頼者は九割が女性。「夫や子どもを病気や事故で突然亡くした方が多い」という。

震災後、被災地の宮城、福島、岩手県から注文を受けた会社もある。遺骨から宝石を製造し、数珠やアクセサリを作る「レイセキ」(堺市)には、十件以上の依頼があった。

多くは津波や地震で墓石が壊れてしまった人から。数々の遺骨で製造でき、郵送でも遺骨を受け付けている。二〇一二年創業だが、震災前は東北からの注文はなかった。担当者は「予期せぬ震災で命を奪われた大切な人を、身近に感じていたいという思いがある」と代弁する。

遺骨加工サービスは現在、全国で十店舗ほど。その他に、遺灰を入れて首に下げるペンダントなど、常に故人とつながっていたいという思いに応える「手元供養」の商品も増えている。

法月社長は「かけがえのない存在だった人が、世界で唯一のアクセサリとして帰ってくる。深い悲しみの中に、喜びをもたらしてくれる」と話している。